

「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」
開催のお知らせ



大分県立美術館では、2023年11月25日（土）～2024年1月21日（日）に、「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」を開催します。

人類史上に輝く繁栄を誇った古代ローマ。なかでも日本人が深い関心をよせるものの一つがテルマエ（公共浴場）であり、ヤマザキマリ氏による漫画『テルマエ・ロマエ』はテルマエへの親近感をより一層高めました。本展では、絵画・彫刻・考古遺物といった100件以上の作品と映像や模型などを展示し、テルマエを愛した古代ローマの人々の生活をより身近に感じていただくことができます。また、『テルマエ・ロマエ』の主人公ルシウスが案内人となり、古代ローマのテルマエとともに、日本の入浴文化も紹介します。ルシウスが浴場をとおして日本とローマを往復したように、それぞれの入浴文化を体感することのできる機会となるでしょう。

開催概要

展覧会名 テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本

会期 11月25日(土)～2024年1月21日(日) 休展日：12月19日(火)

時間 10:00～19:00 ※金曜日・土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

会場 大分県立美術館 1階 展示室A

観覧料 一般 1400(1200)円／大学・高校生 1000(800)円

- ・()内は前売および有料入場20名以上の団体料金。
- ・中学生以下は無料。
- ・大分県芸術文化友の会 ひびKOTOBUKI無料(同伴者1名半額)、TAKASAGO無料、UME団体料金。
- ・身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方とその付添者(1名)は無料。
- ・学生の方は入場の際、学生証をご提示ください。
- ・「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」の会期中に限り、本展の半券提示でコレクション展を無料でご覧いただけます。

チケット（前売券・当日券）販売場所

大分県立美術館、iichiko総合文化センター 1F インフォメーション、大分合同新聞社本社・プレスセンター、TOSハウジングメッセ、トキハ会館 3F プレイガイド、エトウ南海堂、大分市府内五番街商店街振興組合、NPO法人大分県芸振、大分県職員消費生活協同組合、ローソンチケット（Lコード：82619）、チケットぴあ（Pコード：686-492）

主催 公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館、朝日新聞社

共催 大分合同新聞社、TOSテレビ大分

協賛 別府市、豊後大野市

後援 イタリア大使館、大分県、大分県教育委員会、NPO 法人大分県芸振、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、NHK 大分放送局、エフエム大分、J:COM 大分ケーブルテレコム、大分経済新聞

協力 ヤマザキマリ

[「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」チラシデータ\(pdf\)](#)

開会式およびメディア向け内覧会のお知らせ

2023年11月25日（土）開会式 9:15～9:45 内覧会 9:45～10:30

ご参加いただける方はお名前、ご所属、参加人数、電話番号、E-mailをご記入の上、E-mailにて info@opam.jp までお申込みください。

「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」公式WEBサイト

みどころ

古代ローマと日本の入浴文化について、さまざまな作品、資料、考古遺物、模型等を展示し紹介します。

漫画『テルマエ・ロマエ』の主人公ルシウスが案内人としてパネル等に登場します。

序章 テルマエ 古代都市ローマと公共浴場



テルマエとは「熱い」という意味のギリシア語「テルモス」に由来し、狭義には皇帝らによって建設された大規模公共浴場を、広義には古代ローマの版図内の公共浴場全体を指します。4世紀に記された2種類の『ローマ市総覧』によれば、当時ローマ市内には大規模な公共浴場は11を数え、小規模なものにいたっては856～951軒にのぼっていたといえます。

ローマ市内のテルマエで今も地上に遺構がよく残っているのは、アッピア街道沿いに217年に建設された有名なカラカラ浴場と、ローマ市で最大のディオクレティアヌス浴場（302年頃）です。

しかし大規模なテルマエの運営には、水道の管理・維持に加え、大量の燃料と奴隷を必要としました。温泉地にしても、たとえ温泉の利用は続いたとしても浴場施設が維持されることはなかったのです。そのため古代ローマの風呂文化は、中世には消え去ってしまいました。

第1章 古代ローマ都市の暮らし

帝政初期には、ごく一部の特権階級と、増加する「大衆」の格差はかつてないほどに広がりました。下層民が住むのはインストラと呼ばれる高層の集合住宅で、住空間は極めて狭く、水道もなければ台所や風呂の設備もありませんでした。

皇帝たちは大衆の不満を解消すべく、食糧の施与や見せ物など娯楽の提供という施策をおこないました。1世紀末～2世紀初頭の風刺詩人ユウェナリスは、これを「パンとサーカス」と呼んで皮肉っています。テルマエも、大衆からの人気を得るのに大いに役立ちました。何人もの皇帝が、ローマ市に巨大なテルマエを建設しました。庶民たちのくらしは特別な日の見せ物と、毎日の仕事の後のテルマエによって彩られていたのです。

1-1. 庶民の日常

都市に住む庶民の家には、水道もなければ台所もありませんでした。調理するといっても、火鉢で温めるくらいだったでしょう。朝食はパンやチーズやドライフルーツなどで簡単に済ませ、仕事に向かいました。

《炭化したパン（レプリカ）》79年 ナポリ国立考古学博物館

Photo (c) Luciano and Marco Pedicini



1-2. 娯楽

古代ローマでは誰もが楽しめる娯楽として、戦車競走、剣闘士試合、演劇などの見せ物が発達しました。本来は祝祭や葬祭の一環として催されたものでしたが、時代が下るにつれ大衆の支持を得るといった政治的な目的が比重を増し、開催頻度も増していきました。

《剣闘士小像》ナポリ国立考古学博物館

Photo (c) Luciano and Marco Pedicini

1-3. 饗宴

客を招いて饗宴を催すのは、家に台所や饗宴用の部屋があり料理や給仕をする奴隷たちがいる、裕福な者にのみ可能な贅沢でした。饗宴の間にはコの字形に臥台が配され、そこに3～9人ほどが中央に頭を向けて寝そべり、中央に小卓が置かれました。そしてランプの灯のもと、奴隷たちの給仕で、手掴みで前菜、主菜、デザートと続くコース料理を楽しみました。

《ヘタイラ(遊女)のいる饗宴》1世紀 ナポリ国立考古学博物館蔵

Photo (c) Luciano and Marco Pedicini



第2章 古代ローマの浴場

公共の場にある浴場は、ローマ人の発明ではありません。そのルーツのひとつは若者たちが運動後に身体を洗うための水浴施設、もうひとつは医療行為として神域に設けられた入浴施設で、いずれも古代ギリシアに発しています。しかしそれを大衆の娯楽のために、驚くほどの規模へと発展させたのはローマ人でした。

ローマ人にとって、テルマエは単に体を洗う場所というだけでなく、身体を動かし、汗を流し、多くの人と交流して、心身の健康を保つための場所でした。入浴に直接関係した種々の浴室のほか、運動場やいくつかの部屋が付随していたのは、テルマエの複合娯楽施設としての性格を示しています。食事や音楽を楽しむ者もいれば、朗読会が催されるなど、文化サロンのような側面もありました。トラヤヌス浴場やカラカラ浴場には、図書館までもが併設されていたことが知られています。



2-1. アスリートと水浴

テルマエのルーツのひとつは、古代ギリシアのギュムナシウム（運動施設）におけるアスリートの水浴でした。ギリシアでは若者たちは肌に油を塗り、全裸で運動したため、運動後にはストリギリス（肌かき器）で汚れを落とし、水で身体を洗う必要がありました。ローマ世界の公共浴場にしばしば運動場が併設されているのは、こうしたギリシアの伝統を引いたものでした。

《ストリギリス（肌かき器）》前3～後1世紀 ポーラ文化研究所蔵

2-2. 医療と健康

入浴は、健康や医療とも直結しています。医神アスクレピオスの信仰はギリシアで紀元前5世紀に広まりましたが、その神域は必ず近くに清らかな湧水があるところにつくられ、医療行為の一環として入浴を行うところもありました。イスキア島ニトローディの温泉では、古くから泉のニンフたちがアポロとともに祀られています。アポロはアスクレピオスの父であり、疫病を祓う神でもありました。



《アポロとニンフへの奉納浮彫》2世紀 ナポリ国立考古学博物館蔵 Photo (c) Luciano and Marco Pedicini



2-3. 女性たちの装い

ギリシアでは女性の入浴の場は自宅に限られていましたが、ローマでは女性もテルマエに通うことができました。ローマ人女性の装いはギリシアの女性たちに似ていました。化粧は広く普及しており、裕福な家の女性は、高価な装身具を身につけました。指輪は男性もつけたことが知られています。

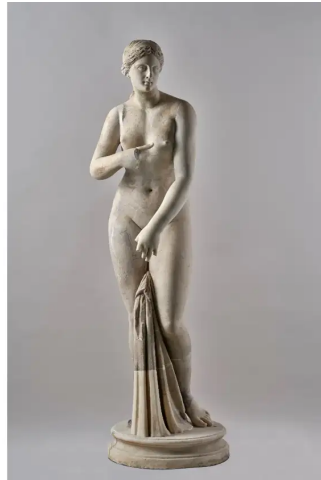
《金製指輪》1世紀 国立西洋美術館蔵

2-4. テルマ工建築と水道技術

大規模なテルマエをつくるには、用地と水道が必要でした。当初はサウナ風呂のみでしたが、紀元前19年にウィルゴ水道が敷設されると、水や湯をふんだんに使用する正真正銘のテルマエとなりました。

《ライオン頭部形の吐水口》1世紀 ナポリ国立考古学博物館蔵

Photo (c) Luciano and Marco Pedicini



第3章 テルマエと美術

ローマの大規模なテルマエには、数多くの大理石彫刻も飾られていました。皇帝や浴場の建設者の肖像のほか、神々の像や古代ギリシアの有名作品のコピーが、壁面に設けられたニッチや円柱の間の台座の上に並んでいました。主題は適当に選ばれたわけではなく、浴場にふさわしいものが選択されました。

《恥じらいのヴィーナス》1世紀

ナポリ国立考古学博物館蔵 Photo (c) Luciano and Marco Pedicini

第4章 日本の入浴文化

本章では、日本の入浴文化について取り上げます。日本の入浴は、おおまかに、天然の温泉と、人工的な施設で行うものとに分けられるでしょう。火山列島のため豊富に温泉の湧く日本では、古くから各地の温泉が重要な資源として地域の住民によって守られ利用されてきました。

人工的な入浴施設は、仏教の寺院内につくられ、汚れと穢れを清める場として広まってきました。江戸時代には町の中に銭湯が整備され、お湯につかるという現代にいたる入浴のスタイルが定着しました。本章では、こうした日本の入浴に関する美術品や資料を紹介します。古代ローマに勝るとも劣らない関心をもって、この習慣を保ってきた日本の歴史の一端をみることができます。

また、大分会場では別府温泉に関する資料をご紹介します。



三浦 宏《湯屋模型》1980年代 個人蔵



落合芳幾《時世粧年中行事之内 一陽来復花姿湯》1868年

神戸市立博物館蔵

※展示期間：12月20日（水）～2024年1月21日（日）



《一遍上人坐像》江戸時代 温泉山永福寺蔵



《豊後国速見郡鶴見七湯の記 照湯窓図》

1845年 大分県立歴史博物館蔵

関連イベント

ヤマザキマリトークショー

講師：ヤマザキマリ（漫画家・文筆家・画家）
日時：2023年11月25日（土）14：00～15：30
会場：大分県立美術館1階 アトリウム
参加費：無料（要申込・展覧会観覧券）
定員：150名

ヤマザキマリ Photo：ノザワヒロミチ



講演会「古代ローマとテルマエ・大分」

講師：井上洋一（奈良国立博物館館長）
日時：2023年11月26日（日）14：00～15：30
会場：大分県立美術館2階 研修室
参加費：無料（要申込・展覧会観覧券）
定員：80名

講演会「テルマエと美術」

講師：芳賀京子（東京大学大学院教授）
日時：2023年12月2日（土）14：00～15：30
会場：大分県立美術館2階 研修室
参加費：無料（要申込・展覧会観覧券）
定員：80名

講演会「近代別府温泉の発展とその背景」

講師：秦 広之（別府市教育委員会社会教育課主査）
日時：2023年12月9日（土）14：00～15：30
会場：大分県立美術館2階 研修室
参加費：無料（要申込・展覧会観覧券）
定員：80名

講演会「テルマエと古代ローマ人の暮らし」

講師：青柳正規（東京大学名誉教授、元文化庁長官）
日時：2023年12月23日（土）14：00～15：30
会場：大分県立美術館2階 研修室
参加費：無料（要申込・展覧会観覧券）
定員：80名

※お申込み：当館HPの申込みフォームからお申込みください。定員に達し次第、締切りとさせていただきます。

ギャラリートーク

担当学芸員が展覧会をご案内します。

日時：2024年1月6日（土）、13日（土） 各日14:00～15:00

会場 大分県立美術館1階 展示室A

参加費 無料（申込不要、要展覧会観覧券） ※開始時刻までに、1階 展示室A 入口前にお集まりください。



2F カフェ シャリテ

2023年11月25日(土)～2024年1月21日(日)

テルマエ展 お風呂でつながる 古代ローマと日本 開催記念メニュー

不知火(デコボン) 入り



フルーツ牛乳寒天 ¥750 (¥682)

おすすめ コーヒーセット ¥1,050 (税込) 紅茶セット ¥1,250 (税込)



『テルマエ・ロマエ 1』(ヤマザキマリ、KADOKAWA 刊) より

フルーツ牛乳を飲んで衝撃を受けるルシウスのシーンに因んだ今回のメニュー。旬の不知火(デコボン)が入った牛乳寒天は、風呂上がりのようなさっぱりとした味わいが特徴です。この機会ぜひお召し上がりください。

《カフェシャリテ》

営業時間：11:00 - 17:00 (ランチタイム 11:00 - 14:00)

定休日：不定休 (原則年中無休、臨時休業日あり)

Tel : 097-578-7788 Fax : 097-578-7787 E-mail : charite@aria.ocn.ne.jp

■お問合せ

公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館

学芸担当：吉田 広報担当：渡邊、山口

Tel: 097-533-4500 Email: info@opam.jp